

# 岡山県生涯学習審議会及び岡山県社会教育委員の会議第2回会議

## 議事概要

日時 令和8年1月30日(金)  
10:00~12:00  
場所 県立図書館多目的ホール

### 1 開会

### 2 議事

- (1) 今期審議するテーマについて
- (2) 実践発表の内容について
- (3) 今後の調査審議の進め方について

### 3 閉会

#### <議事概要>

会長 | 本日の審議の進め方について、事務局から説明をお願いしたい。

○事務局

本日の審議の進め方について

【資料1】

会長 | 本日の審議の進め方について、ご意見があればお聞かせいただきたい。

全員 | (意見なし)

会長 | 事務局からご提案いただいた内容で、本日の審議を進めていきたい。前回会議の際には、テーマについては次回改めて検討することとなっていたため、事務局よりテーマについてご説明いただきたい。

○事務局

テーマについて

## 【資料1】

会長

前回会議において委員の皆さんからいただいたご指摘・ご意見を踏まえ、事務局で検討し、再度提案している。

テーマの具体的なイメージを持っていただくため、高梁市教育委員会参与の福原洋子様、学校連携コーディネーターであり社会教育主事でもある横山委員に、高梁市の現場での取組みについてご発表いただきたい。

- 高梁市教育委員会 福原洋子参与  
実践発表①

### 【資料2】

- 横山弘毅委員  
実践発表②

### 【資料3】

会長

お二人のご発表を踏まえ、事務局から提案があったテーマについてご質問があればお願いしたい。

その後、実践発表についてのご質問等の時間を設ける予定である。

委員

自身が先ほど発表した内容とテーマ案の文言を照らし合わせてみると、「子どもを通じた」という表現や、「持続可能な地域づくり」という記載にやや違和感を覚える。

委員

資料には、地域運営組織における担い手不足などが記載されている。地域の文化や伝統を継承する役割についても、人口減少の影響により、地域おこし協力隊をはじめ外部から移住してくる人材が担う場合が増えており、地域のアイデンティティにも変化が生じている。そのため、人の流動性を前提とした新たな人材像を検討する必要がある。

また、従来どおり地域で培われてきたことを継承する人材育成だけでは、今後の時代の変化に十分対応できない。外部から参画し、多様なアイデンティティを持ち、広域的に活動できる人材を想定した育成が求められる。

今回のテーマ案について議論を進めるにあたり、人材不足の解消を主な課題とする場合には、次世代を見据えた人物像や人材像を明確に定義した上で、人材不足が生じている背景にある構造的な要因を整理し、検討することが重要である。

会長

これも重要なご意見である。

- 委員 テーマ案は本日決定しなければならないのか、それとももう少し流動的に複数の案を出し合い、最適な案を選定していく予定であるのか、進め方について伺いたい。
- 会長 本日は実践発表等も行われており、今後の調査研究を進めるためにも、テーマの方向性については本日中に決定したいと考えている。
- 委員 先ほどの実践発表から、子どもの教育がこのように進展していることに感心した。テーマ案の細かな文言は今後修正可能であるとしても、10年後、20年後を見据えた子どもの教育をテーマの方向性とすることは妥当であると考ええる。
- 委員 話を伺い、重要なポイントが三つあると感じた。一つは「場」が存在することであり、次に「混ざる」こと、最後に「変容する」ことである。子どもの学びを通じたというよりも、混ざりや変容が生じることが重要であり、そうした要素がテーマに含まれることが望ましい。参加した生徒で、以前は無口だった男子生徒が積極的にコミュニケーションを取るようになったという話を伺ったが、本人や周囲の人々の感想をお聞きしたい。
- 委員 本人は以前は無口であったが、現在はよく話すようになり、明らかに変化がみられる。見知らぬ町ゆく人にコーヒーを振る舞いながら会話したり、観光ガイドとして人と接することを楽しむようになった。これは、以前は人と話すことに対して不安や恐怖を感じていたことの裏返しであり、過去の嫌な体験や不測の事態への不安が背景にあったと推察される。しかし、見知らぬ人と会話する経験を重ねることで、自分を表現してもよいと前向きな気持ちが芽生え、行動にも変化が現れたと考えられる。保護者によれば、家庭ではよく話すとのことである。中学生の年代には学校での姿がその子の全てではないことがよくあるが、本人が多様な側面を持つ存在であるという認識が、周囲の大人にも広がったのではないか。また、以前は周囲の大人がその子をフォローしていたが、今ではむしろ大人が本人に頼る場面も増えており、周囲から頼られることが本人に良い影響を与えていると考えられる。
- 委員 赤磐市では、子どもの学びが将来にどのように結びついているかを確認するため、成人式においてアンケート調査を実施している。中学3年生時に行われる全国学力学習状況調査と同じ設問を、成人式の会場で20歳の若者に回答してもらう形で行っており、15歳時点の学習内容が20歳時点で成果として現れているかを一定程度確認できる。調査結果によれば、5～6年前から地域に根ざした学習活動を総合的な学習の時間等で進めてきた結果、同じ設問

で比較すると20歳時点の方が良好な結果が得られている。赤磐市には高校がないため、高校や大学での学びの影響は明らかではないが、15歳時点の学びが20歳時点で成果につながっているとみえる。「子どもの学びを通じた」という視点は不可欠であるが、赤磐市では「多様な学び」という表現を用いている。多様という言葉の解釈は様々であるが、本日の実践発表を踏まえると、「子どもの多様な学び」が今後ますます重要になると考えられる。赤磐市の教育振興基本計画でも「多様」という言葉を盛り込み、社会教育主事や社会教育士の役割についても明記して策定している。

委員 「多様」という言葉を盛り込むことに賛成である。実践発表にもあったように、「場」があることで次の展開につながる。また、学校だけでなく社会教育全体で考えた場合、物理的な「場」だけでなく、人との出会いといった要素も含めた「場」が様々な子どもたちに必要である。「多様な」という言葉にはそれらが含まれていると考える。

委員 実践発表にあったとおり、子どもを起点として大人と子どもが混ざり、変容の循環サイクルを形成していく過程は、高梁市では市全体の取り組みであるが、倉敷市など規模の大きな自治体では各中学校区単位でこのような循環サイクルを作ること、持続的な広がり期待できる。小学校現場では社会教育を長期的視点で捉えにくく、また学校ではカリキュラムが重視されるため、総合的な学習の「ふるさと教育」などを通じて取り組むことになるが、その中に「場」や「変容」が生まれれば望ましい。このような循環サイクルを増やすためには、コーディネートできる社会教育士の存在が必要である。

委員 私も、「子どもの学びを通じた地域づくり」というテーマに賛成である。西粟倉村で活動している大人たちも、子どもを中心に据えた取り組みを模索している。そのような活動においては、社会教育士がハブとなり、場づくりを担う運営者同士をつなぐことが重要である。今回の高梁市による高校魅力化のように、庁内横断的な組織を構築し、行政と民間が協働して取り組みを進めるためには、社会教育士や社会教育主事が中心となってコーディネートすることが不可欠である。本会議においても、地域資源を有効に連携させることの重要性について議論し、優れた事例を参考にしたいと考えている。

委員 テーマの内容は適切であると考え。持続可能な地域づくりは、すなわち持続可能な社会づくりであり、社会全体の向上が求められるものである。その実現には、社会が同質化していく中で、いかに多様性を確保するかが重要であり、私はその観点から地域活動に取り組んでいる。各地域においては、多様な価値観を持つ子どもや大人が存在することが望ましい。私が倉敷市内

で実施している「街場の学校」では、地域住民や様々なゲストが参加するイベント型学習プログラムを通じて、大人がリベラルアーツを学ぶ機会を設けている。「子どもの学び」という表現には若干の違和感を覚えるが、「学び」という言葉が特定の対象のみを示す印象を与えないよう、「多様」という語を加えることは適切であると考えます。

委員 「子どもの」ではなく、大人も含めて「子どもとの」学びや交流を通じたといった表現も検討できると考える。言葉の選択によって生まれるイメージも変わるため、そうした要素も踏まえてテーマを作成すべきである。

委員 「子どもだけ」という表現には違和感がある。発信したい内容と受け手の認識の間でニュアンスが変わるのは好ましくない。「子ども」とすると学校教育と受け取られがちであり、「地域づくり」というと範囲が限定される。また、持続可能性のみを強調すると現状維持だけを目指す印象となり、新たな創出や変化が感じられない。

会長 テーマの文言については事務局と相談しつつ検討するが、委員の皆さんとはテーマの考え方や方向性について大筋で共有できたと思う。私は10年以上前から大人と子どもの歯車モデルを提唱している。大人と子どもは、同じ大きさの歯車であり、子どもが育つためには大人が必要であり、大人が育つためにも子どもが必要である。その歯車がかみ合わなくなっている場合、誰かが意図的に調整する必要がある。これが「場づくり」と関連していると考えている。調整役となるのが社会教育主事や社会教育士である。そうした内容を反映することで、テーマ名称も委員の皆さんの考え方に近いものになると考える。文言については引き続き検討し、この案と方向性で進めていきたいがよろしいか。

全員 異議なし

会長 大人と子どもの歯車を噛み合わせるためには、プロデューサーや仕掛け人が必要であり、社会教育主事の存在が重要である。しかし、社会教育主事が減少している現状では社会教育主事のみでは十分に対応できない。そのため、民間やNPO等で活動している社会教育士の方々と連携し、事例のような取組みを進めていきたいと考える。社会教育主事の資格は岡山大学では2年に1回講習が実施され取得可能である。県や市町村で発令されている人数は少ないが、有資格者は多い。そうした人材も活用して、仕掛けていければ良いと考える。

お二人の実践発表について、ご質問やご感想があればお願いしたい。

委員 私は昨年2月に社会教育主事の資格を取得したが、資格取得だけでなく実務経験を積むことが重要であると考えている。社会教育主事にはファシリテーターとしての力が求められ、実務経験を重ねて学ぶ必要がある。高梁市では行政と高校生や若い世代が連携しているが、矢掛町には県立矢掛高校があり、町と高校が包括協定を結んでいる。施策では中学生だけでなく高校生も参加し、中高生議会やフォーラムも実施された。中高生は非常に思慮深い意見を述べ、若い行政職員は大きな刺激を受けている。若い職員は上司の指示待ちになりがちであるが、自分より若い世代の意見を聞く場に参加し、学びや刺激を受けることが必要である。若い職員も将来指示する立場になるため、自分ごととして関わることが大切である。

委員 資料3の社会教育士が様々なセクションに描かれているイラストが印象的である。私の周囲にも社会教育主事の資格を取得された方が多くいる。有資格者が資格取得時の情熱を維持し続けられるような仕掛けが必要である。

委員 ユース支部の学生メンバーは、自薦か他薦かを伺いたい。

委員 自薦である。応募時に先生による声かけはあったかもしれないが、中学校での説明会には十数名が参加し、その後活動に参加したのは6～7名である。

委員 保護者の年代は様々であるが、資料1の「地域活動担い手不足」の棒グラフにあるとおり、20代・30代男性と40代・50代男性の担い手不足の格差を実感している。私は50代であるが、小学校では道德教育をしっかり受けた世代である。私と同世代の保護者は依頼すれば引き受けてくれることが多いが、若い世代にお願いしても断られることが多い。もちろん地域活動を引き受けてくれる若い人もいるが、その数は少ない。今後、20～30年先を見据えるならば、若い世代への道德教育や子どもの頃から支え合うことの大切さを説いていく必要がある。

先日、いじめ問題に関する会議に参加した際、いじめをなくすことは難しいと感じたが、加害者をなくせば被害者もいなくなると考えている。加害をなくすには道德教育が不可欠である。世代間で地域活動への取組みに差があるので、若い世代にモラルを説くことにも力を入れるべきである。横山委員は先を見据えた活動をされていると思うが、社会教育主事や社会教育士が全員同じようにできるわけではないため、周囲や地域を巻き込んだ活動が重要である。小学校単位のコミュニティで良い環境ができれば、それが中学校区にも広がる。小さな地域単位から始めるのが良いと考える。

会長

新しい学習指導要領に基づく道徳教育は、現在50代の世代が受けていたものと比べ充実している。しかし、現代社会は環境や社会の変化が著しく、保護者像も多様化している。

本日の事例を踏まえて感じたことは、大人と子どもが歯車のように育ち合うためには、子どもを起点に大人も変容していくことが重要であるという点である。大人は先入観や価値観にとらわれがちであるが、例えば「高校は県の所管なので関係ない」といった思い込みや、「中学生は部活動や塾で忙しいので観光ボランティアは参加できない」といった決めつけが見受けられる。しかし、放課後の過ごし方も変化しつつある。大人の先入観や価値観を打破し、変化を促す役割は社会教育主事や社会教育士が担うべきであり、従来の考え方に疑問を投げかけることが変化のきっかけとなると感じている。これは容易なことではないが、本日の高梁市の事例のように、従来の考え方を変えていくことは参考になった。

今後こうした良い事例を参考にしながら、岡山県だけでなく他県の事例も含めて、岡山に応用できる取組みを検討していきたいと考えている。具体的なテーマ名称については今後も皆さんと議論を重ねながら柔軟に変更していきたい。

委員

私は高梁市出身であり、本日の実践発表を聞いて高梁市に誇りを持った。社会教育主事や社会教育士が行う地域活動をNPOや任意団体の方々が認知していないことが課題であり、一般にもその役割を広く周知する必要がある。また、社会教育士の有資格者はコーディネート能力を持って活動している人から学んでいくことが重要である。

会長

本日の実践発表のように、社会教育主事や社会教育士の役割を可視化することで、どのような働き方や役割が効果的な取組みにつながるかを明らかにできれば、良い提言や研究になると考える。今後も皆さんのご意見を踏まえて進めていきたい。

今後の調査審議の進め方について事務局から説明をお願いしたい。

○事務局

今後の調査審議の進め方について

【資料4】

会長

今後の進め方について、ご意見があればお願いしたい。

全員

(意見なし)

会長

本日の議事を終了し、事務局へお返しする。